

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

2023.6
vol.151

劇場は令和5年8月から休館、
県内各地で公演をお届けします!



Let' 和の音♪「邦楽と落語」

上方寄席囃子三味線奏者 浅野美希 特別インタビュー

こどももおとなも劇場#8 SPAC『みつばち共和国』

SPAC 制作部 北堀瑠香さん インタビュー

オペラシアターこんにゃく座 オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』

オペラシアターこんにゃく座 制作 田上さん インタビュー

はじめてのクラシック♪&おんがくのおもちゃ箱

お子さまのコンサートデビューにピッタリの公演をご紹介します!

『紅い花 ～松之木天辺、ちあきなおみを歌う～』

出演者メッセージ



メディキット 県民文化センター 広報誌
MEDIKIT ARTS CENTER

邦楽と落語



上方寄席囃子三味線奏者 浅野美希

邦楽と密接なかかわりのある日本の伝統文化をテーマに、令和3年度（2021年度）から3回シリーズで開催してきた「Let's 和の音♪ 伝統文化シリーズ」。シリーズ第三弾となる今回は、「邦楽と落語」をテーマにお届けします。江戸時代から伝わる“日本の粋”と芸能を、ぜひお楽しみください！

「邦楽と落語」の前半「落語を楽しむ!」にご出演いただく上方寄席囃子三味線奏者で、松浪流（上方唄・地歌）の師範でもある浅野美希さんにお話をうかがいました。

寄席囃子とは

寄席で落語家や漫才師といった演者の入場時等に三味線、当り鉦や太鼓等が加わって演奏される音楽。入場時の「出囃子」、口演の終わりを告げる「受け囃子」、奇術や曲芸のときに演奏される「地囃子」などがある。また、上方落語では、落語の途中で情景や心理を表現するために囃子や歌の伴奏が入ることがあり、これを“はめもの”と呼ぶ。

寄席囃子三味線奏者のお仕事について教えてください。

客席からみて舞台の左側にあって下座と呼ばれるお客様からは見えないところで、落語家さんの囃や所作にあわせてお囃子を演奏しています。上方落語では、落語家さんの所作やセリフをきっかけにして“はめもの”を演奏しますので、下座から落語家さんを見ながら演奏できるようにいろんな工夫もしたりしています。演奏している様子はお客様からは見えないので、CDを流していると思われることもあります。実際は生演奏のことが多いです。“はめもの”の入るお囃をされる上方の落語家さんには、生演奏にこだわる方も多くいらっしゃいます。

太鼓や当り鉦といった鳴り物は落語家の前座さんが担当されるのですが、実は、伝統のしきたりもあって、寄席囃子の三味線と歌は女性が担当することになっているんです。上方ではお囃子さん20名くらいいます。寄席囃子の三味線奏者になるには、上方の場合、現役の寄席囃子のお師匠さんのところに弟子入りして、教わる場所から始まります。

年間何日くらい演奏されているのでしょうか？

だいたい年間200日ぐらいかなという感じです。月によってばらつきがあるんですが、新型コロナが流行する前は、1か月間のうち2日しかお休みがないようなときもありました。忙しいのはとてもありがたいことなんですけど、新しい曲を覚えたり、基礎的な演奏技術を磨き続けたりするためにはお稽古の時間も必要になってくるので、そこは悩ましいところですね。

“寄席囃子での演奏”と“上方唄や地歌での演奏”とで違いはあるのでしょうか？

寄席三味線は、とにかくお客様が聞いてウキウキするようなエネルギーが客席に伝わらないとダメだということで、上方唄や地歌の弾き方からすると、ちょっと誇張したような弾き方になっていると思います。ただ、三味線奏者としては基礎的な技術を身

につけることも大切ですので、上方唄や地歌、長唄のお稽古でそうした基礎を修めながら、寄席の時は寄席囃子に適した弾き方に切り替えて、という感じでやっています。そうやって地道に基礎練習を積んでいくと、落語家さんやお客様からいただいた「ちょっと変わってきましたね。何かされましたか?」というお言葉から、その大切さを実感する機会もできて、だんだんと自分の中で切り替えるためのスイッチが分かるようになってきました。

宮崎のお客様へメッセージをお願いします。

宮崎にうかがうのは初めてなので、とっても楽しみにしています!できることなら、ちょっと早めに行って観光したいほです(笑)。それと、今回はワークショップもありますので、それもすごく楽しみにしています。実は、上方の寄席囃子のワークショップでも太鼓の体験はあっても、三味線というのは少なくて。実際に楽器に触れてもらえると、自分が弾いた音が身体に響いてくる感じなども体験していただけたと思いますし、皆さんと一緒に演奏する寄席囃子がどんなふうになるのか、とても楽しみです。それで、もし三味線を始めてみたいと思ってくださる方が現れたら、もうめっちゃ嬉しいですね。

公演だけでなく、ワークショップにも皆さまのご参加をお待ちしております!!

【出演者】



落語家 桂吉坊



上方寄席囃子三味線奏者 浅野美希



長唄三味線方 杵屋邦寿



地歌箏曲家 竹澤悦子

公演情報

Let' 和の音♪ 伝統文化シリーズ 第三弾 「邦楽と落語」

日時 2023年8月26日(土) 開演 14:00

会場 新富町文化会館 イベントホール

【番組】「落語を楽しむ」「邦楽落語」
【出演】落語家:桂吉坊、月亭遊真、桂二豆
上方寄席囃子三味線奏者:浅野美希
長唄三味線方:杵屋邦寿 / 地歌箏曲家:竹澤悦子



新富町

Let's 和の音♪ 伝統文化シリーズとは・・・

「日本の音、日本の声は身近にあって、耳にしている。ぜひ、そのことに気づいていただきたい」との思いから、日本の伝統文化と邦楽との関係を軸にした構成でお届けしてきました。



シリーズ第一弾「邦楽と歌舞伎」
杵屋邦寿さんの長唄三味線による「一人勧進帳」



シリーズ第二弾「邦楽と相撲」
松田哲博さん(元力士・一ノ矢)による解説と相撲甚句の実演



シリーズ第三弾「邦楽と相撲」
地歌箏曲家の竹澤悦子さんによる浪曲地歌「初代高砂浦五郎」

関連企画

寄席囃子体験ワークショップ

月亭遊真、桂二豆、浅野美希のお三方を講師に迎えた寄席囃子体験ワークショップ(大太鼓&締め太鼓&当り鉦コース、三味線コース)を開催します!

日時 / 2023年8月27日(日) 13:30~15:30

対象 / 小学校4年生以上

参加料 / おひとり1,000円(税込)

※ワークショップの詳細や申込み方法は、チラシ・HPをご覧ください。

邦楽落語

「邦楽と落語」の後半では、長唄三味線方の杵屋邦寿さん、地歌箏曲家の竹澤悦子さんによる「邦楽落語」を披露いたします。はたして、この「邦楽落語」とは?

長唄三味線方から邦楽界初の作曲専門家に転身し、1,200曲を超える作品を創作、さらに多くの演奏家を育成した杵屋正邦(1914-1996)が、古典落語を題材に邦楽化したものです。落語の囃を音楽の流れに乗せやすいように縮小し、正邦が本名・吉川博久の名で作詞も手がけました。正邦63歳の1977年から10年間、毎年1曲ずつ自身の「作品発表会」で披露されたこれらは、地歌箏曲をはじめ謡曲、新内節、富本節など幅広いジャンルをこなし、さらにそれらのエッセンスを盛り込んだ独自の世界を展開していた平井澄子を念頭に置いて作曲されました。

今回、この邦楽落語から杵屋邦寿さんは「松山鏡」を、竹澤悦子さんは「がまの油」を弾き語ります。

インタビュー 宮崎と落語

宮崎でも毎年県内各地で落語会が開催され、2009年からは日向市で「ひむかの国こども落語全国大会」が開催されています。そんな宮崎と落語の関係について、県内で落語教室の指導も行う柱大黒さんにお話をうかがいました。

宮崎でも落語が親しまれている理由には、ラジオやテレビの影響も大きいのですが、私の師匠だった日向市出身の桂歌春師匠をはじめとした、宮崎や九州にゆかりのある落語家の県内での活動によるところも大きかったと思います。私も立ち上げメンバーの一人として関わって、今も続いている「ひむかの国こども落語全国大会」は、当時、日向市でやっていた落語教室の生徒さんたちの発表の場として子ども落語の全国大会を探してみたら、国内でやっているところがどこにもなくて、「ないなら作ってしまおう!」ということで始めました。おかげさまで、今では北海道から九州まで、国内各地から参加者に来てもらっています。

県内各地の文化会館が落語会や落語ワークショップを開催してくださっていることも宮崎で落語が親しまれている理由のひとつなのですが、上方落語が宮崎に来ることはなかなか少なくて。「邦楽と落語」では上方落語界から吉坊師匠と浅野美希さんらをお招きして、上方落語も口演いただけるということで、とてもいい機会だなと思いますし、私自身もとても楽しみにしています。



柱大黒

7月に親子で楽しむ2公演!

7月は、4歳以上のお子様から楽しめる公演を、2日(日)に都城市総合文化ホール、23日(日)にメディキット県民文化センターで開催!どちらも大注目の2作品。ぜひお見逃しなく!

7/2
(日)

こどもおとなも劇場 #8

すばっく

SPAC『みつばち共和国』

会場：都城市総合文化ホール



SPAC 制作部
北堀瑠香さん

SPACについて教えてください!

SPACは、静岡県静岡市にある静岡芸術劇場と静岡県舞台芸術公園の2ヶ所を拠点に活動しています。俳優だけでなく、技術スタッフや制作部がいる、県が劇団と専用の劇場を持っているという、日本ではめずらしい劇場であり劇団です。

作品をつくって上演するだけでなく、毎年ゴールデンウィークに開催している「ふじのくににせかい演劇祭」で海外から作品を招いて上演したり、9月から翌3月には土日の一般公演に加えて、平日には県内の中高生を招待して同じ作品を鑑賞してもらう中高生鑑賞事業公演を行っています。その他にも、演劇やダンスの人材育成や、学校や児童クラブ向けのアウトリーチ活動などにも力を入れています。

この作品はもともとフランスの作品?

そうです。2019年にフランスのアヴィニオン演劇祭で初演されたときに、SPACの宮城聡芸術総監督が、ぜひ日本語版で

つくらないかとオファーをして生まれたのが、この『みつばち共和国』なんです。

どんな作品なんですか?

蜜蜂の1年を描いた作品です。蜜蜂の図鑑を読んでいるような感じで、大人の方も「そうだったのか!」と学ぶ・知ることも多いですし、子どもにとっても、俳優の身体表現や映像などを観て、言葉は分からないけれど「楽しい」と思っただけ、大人も子どもも一緒に楽しめる作品になっています。

ずばり!見どころは?

開場中や作品の中に、自然の音が使われているのですが、そういった音のほとんどを演出家のセリーヌさんが養蜂家の方をお願いして、巣箱の中で録れた音を使用しているので、お客さん自身がまるで巣箱の中にいるような感覚を味わっていただけたと思います。また、セリーヌさんはご自身で自然の風景写真をたくさん撮られるので、実際に彼女が定点カメラで撮影したものを作品で使っていたりして、音や視覚的にも楽しむことができるのが、この作品の見どころかなと思います。



© 猪熊康夫

さあ、みつばちの世界に飛び込もう!



© 三浦興一

静岡で上演した際、お客さんの声で印象的だったのは?

大人の方からは、「知っているようで知らなかった蜂の生態を知ることができた」「蜜蜂が私たちの生活にとってすごく大事な役割をされていて、次世代にも伝えていきたい」という感想が多かったですね。あとは、本来なら蜜蜂は何万匹という中、蜜蜂の役は2人しかいないのに迫力がある舞台で感動したって感想もありました。小学生や小さいお子さんにとっては、ちょっと難しい部分があったけれど、身体表現とかですごくわかりやすかった、といった感想や、環境問題についても勉強してみたといった声もありましたね。

北堀さんにとって『みつばち共和国』とは!

やっぱり蜂の見方が変わりましたね。蜂ってこの作品に立ちあう前まではすごく怖いし刺されたら死んじゃうかもしれないし…って思っていたんですけど、蜂自身も刺したら自分が死んじゃいますし、敵が多い中で懸命に生きているんだなと思いましたね。また、蜜蜂の暮らしが、私たちの生活や環境問題にも関わってくると分かって、蜜蜂の大切さを考えるようになりましたね。

北堀さん、ありがとうございました!

7/23
(日)

オペラシアターこんにゃく座

オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』

会場：メディキット県民文化センター

7月23日(日)には、オペラシアターこんにゃく座によるオペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』をメディキット県民文化センターで上演!1987年以来、多くの人に愛されてきた児童文学の名作『ルドルフとイッパイアッテナ』が日本語オペラに!今回、こんにゃく座の制作・田上さんにお話を伺いました!



オペラシアター
こんにゃく座 制作
田上さん



こんにゃく座について教えてください!

こんにゃく座は1971年にできた、日本語のオペラを創造して公演している団体です。オペラをたくさんの人に気軽に楽しんでもらおうと、東京藝術大学の学生たちが自分たちで新しいオペラを作って公演活動を始めたのが最初です。

オペラってちょっと敷居が高いですよね。子どもたちはそういった先入観がないので、まずは子どもたちに楽しさを知ってもらおうと、学校公演から始めました。バスを自分たちで買って、そこに舞台用品や生活道具を全て詰め込んで、バスで寝泊まりしながら全国を旅して回っていました。

子どもたちはとても厳しい観客なので、つまらなかつたら観ないし、ざわついたりします。本当に素直で、面白いかどうか子どもたちの反応から分かるんです。こんにゃく座のオペラは、そうやって子どもたちの目によって磨かれてきたところがあるのかなと思いますね。



こんにゃく座のオペラの特徴は?

マイクを一切使用しない生の歌声であるということと、楽器も全て生演奏で行うということですね。マイクやスピーカーを通して聴こえるのではなく、生の声を聴いてもらって、その迫力とか、小さな声なのに届くとか、そういったことを肌で感じてもらえるのが一つ大きな特徴かなと思います。

どうして『ルドルフとイッパイアッテナ』をオペラに?

この作品は作曲家の信長貴富さんと初めて一緒に作った作品なんですけれど、子どもたちに向けた作品を、と題材を探していた中で、信長さんが提案してくれたのが『ルドルフとイッパイアッテナ』なんです。

オペラは音楽があることで、世界を飛ばすことができたり、動物や人間でない登場人物たちが違和感なくそこに存在できたりっていうのがあるんですよね。信長さんは最初からそういう動物たちが出るような作品をオペラでやるのがいいんじゃないかって思いがあって、この作品を提案してくださったようです。

信長さんの作曲された音楽は必聴ですね!

きっとお客さんの中で、音楽が観ているシーンのドキドキやワクワクに、自然とつながっていくと思います。信長さんがとても親しみやすい音楽をたくさん書いてくださったので、子どもたちがすぐ歌えちゃいそうな、そういった音楽があちこちにあると思います。

信長さん作曲の音楽も一部聴けますよ!QRコードから紹介動画にアクセス!



あの児童文学の名作がオペラに!



美術が想像力をかきたてられそうですね!

今回、美術が大きな脚立に足場板が渡されている舞台装置なんですよ。岐阜から東京にやってきたルドルフが、都会の中にぽつんとしているところで、脚立がビル群に見えてきたり、街の中に見えてきたり。いろんなシーンで見え方が変わってきたりするので、面白い舞台の使い方になっていると思います。

カラダの動きにも注目?

今回、振付に山田うんさんに入っていたのですが、振付していただいたシーンもあれば、ただ動き回るところやふとした仕草にも、「こういっところ気をつけて」「こういっところはこうしてみたら」ってご意見いただいて、本当に猫に見えてくるんですよ。初演時のアンケートでも「猫たちが本物の猫に見えた」という感想も多かったのも、そういったカラダの動きにも注目してほしいですね。



田上さん、ありがとうございました!

関連ワークショップも開催!

アートな学び舎2023
“わたしのカラダと、コエと、ウタ!”

7/22(土) 13:00~15:00

詳しくはHPをご確認ください。



公演情報

こどもおとなも劇場#8 SPAC『みつばち共和国』

2023年7月2日(日) 開場13:30/開演14:00

会場：都城市総合文化ホール 中ホール

〔メーテルリンク作『蜜蜂の生活』に基づく〕

作・演出：セリーヌ・シェフェール

日本語台本：能祖将夫

出演：たさいみぎ、永井健二、仲村悠希/声の出演：木内琴子



オペラシアターこんにゃく座

オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』

2023年7月23日(日) 開場13:30/開演14:00

会場：メディキット県民文化センター 演劇ホール

原作：斎藤洋(講談社刊『ルドルフとイッパイアッテナ』による)

台本：いずみ凜/作曲：信長貴富

演出：立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター)

出演：泉篤史、金村慎太郎、鈴木あかね、熊谷みさと、五味貴秋(ピアノ)





お子さまのコンサート初体験を劇場で！

0歳からご入場可！お子さまのコンサートデビューにピッタリの公演をご紹介します！

生で奏でられる音楽を小さなお子さまと！親子で体を動かして、リズムを感じながら、音楽を味わってみよう。
泣いてもはしゃいでも、楽しんでいただければOK！授乳室やおむつ替えスペースもご用意しております。

はじめてのクラシック♪

目の前で演奏される生のクラシック音楽にうっとり。
豊かな響きをリラックスした雰囲気で楽しめるコンサートです。



2023
8/19(土)
開演 11:00
小林市

はじめてのクラシック♪ in 小林 ～ピアノ～

【会場】小林市文化会館
大ホール舞台上

【出演】高場涼子
(ピアノ)



『はつクラ♪』は、ママと一緒に体を揺らしながら、パパが寝ている赤ちゃんを抱っこしながら。演奏途中に走り回ったり、泣いてしまったり。突然歌い始めても、全部が楽しい気分になれるコンサートです。聴きやすい曲や童謡、話も交えながらなので、こどものコンサートデビューにもピッタリです。今回も、どんな出会いがあるのか、とても楽しみにしています。

高場涼子さん

2023
9/23(土)
開演 11:00
延岡市

はじめてのクラシック♪ in 延岡 ～フルート～

【会場】延岡総合文化センター
大ホール舞台上

【出演】熊谷愛香(フルート)
野崎さやか(ピアノ伴奏)



熊谷愛香さん

私は本公演に奏者として、またお客さんとして何度も参加している熱いファンです。生まれて初めて演奏を聴いてくださる可愛いお子さんとその親御さん達との空間はとても温かく、優しい笑顔で溢れています。今回も皆さんが楽しい時間をお過ごしいただけるプログラムをご用意してお待ちしております。



おんがくのおもちゃ箱シリーズ

おとのたねバンド編

ノリノリの音楽で思いっきり楽しむ生バンドの演奏！お子さまと触れ合って、
身体を動かして、リズムを全身で感じよう！

【出演】衛藤和洋(ドラム&パーカッション)、大西映光(ベース)、
黒木奈津季(ピアノ)、伊豆謡子(進行&歌)、香月保乃(ユーフォニアム)



衛藤和洋さん

先日、おもちゃ箱公演を観て育ったお子さんが、その後ピアノを頑張っており、共演する機会がありました。ステージ、舞台裏、受付、事務所など子どもたちに見える場所、見えない場所にいる大人たちみんなが、この事をとても嬉しいと思ったはず。私たちのおとのたねが確実に芽吹いているなと感じた瞬間でした。今回も沢山の方に楽しんでほしいです。



伊豆謡子さん

「みんなで一緒に遊ぼうよ！」音楽のおもちゃ箱、というくらいです。から楽しくなくちゃ始まりません。子どもの笑顔を見ると大人が嬉しくなると同じくらい、大人の楽しそうな顔を見られたらきっと子どもも嬉しいはず。帰り道は親子で一緒に歌を口ずさみながらスキップしたくなるような、そんな楽しい時間を過ごしましょう。

公演情報

2023
9/9(土)
開演 11:00
宮崎市

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.17

【会場】宮崎市民文化ホール
大ホール

2023
9/10(日)
開演 11:00
えびの市

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.18

【会場】えびの市文化センター



～松之木天辺、ちあきなおみを歌う～

県民の皆さまとより近くでふれあえる機会を求めて県内3か所を巡る旅公演が、いよいよ始まります！

最初の公演地は、国富町。終演後には本番と同じ舞台を使って町民の皆様と一緒に楽しむ関連企画もあるなど、宮崎県立芸術劇場にとって新しい試みが満載です。それぞれの土地で、皆さまとふれあいながら、次へとつながる新たな出会いを求めて、国富町、都農町、五ヶ瀬町の3か所を旅してまいります。

昭和の日本の片隅に
けて幸せとは言えないけれど
無邪気で温かい女たちがいました。
そんな彼女たちの歌を
心をこめて歌います。
聴いてください。



各公演地に赴き、作品を上演するのは松之木天辺さんと
ちゃっく澤幡さんのおふたり。松之木さんは、大劇場のミュージカル作品から小劇場作品まで幅広く出演し、ダンサー・俳優・作曲・台本・演出とマルチに活躍するかたわら、2017年には香川県小豆島に移住し、民宿・小劇場・アトリエからなる滞在型複合施設「shoudshima 開 KAI」を自ら立ち上げて運営もされています。地域に根差した活動や表現者としての実績に裏打ちされた松之木さんの魅力と経験が、今回の県内巡回公演でも発揮されることが期待されます。ちゃっく澤幡さんは、作曲家・編曲家・鍵盤奏者として首都圏を中心に活動するだけでなく、松之木さんの作品では音響スタッフとしても関わっていらっしゃいます。

この相性抜群のお二人でお贈りするのが『紅い花～松之木天辺、ちあきなおみを歌う～』。タイトルが示すとおり、ちあきなおみが歌った楽曲をストーリー仕立ての構成にして、ちゃっく澤幡さんが奏でるピアノの生演奏と松之木天辺さんの情感たっぷりの歌声でお届けします。

2021年の初演時は小豆島・高松・松山・東京を旅した本作。今年度は宮崎県内を旅します。

県内1か所目となる国富公演では、終演後に町内外の皆様と一緒にご参加いただける関連企画「『歌っちみろかい♪』町民歌謡ショー in 国富」の開催も予定しています。“その地域ならではの”お届けしていく『紅い花～松之木天辺、ちあきなおみを歌う～』県内巡回公演。

どうぞお気軽にご来場ください。

公演情報

『紅い花～松之木天辺、ちあきなおみを歌う～』 国富公演

日時 2023年7月30日(日)
開場14:30 開演15:00

会場 国富町農村環境改善センター 大ホール

【出演】松之木天辺 【ピアノ演奏・編曲】ちゃっく澤幡
都農公演(2月予定)、五ヶ瀬公演(3月予定)の詳細は、後日チラシ・HPにてお知らせします。

国富町



メッセージ

松之木天辺 まつのき・てつぺん

国富は、いつか必ず訪れてみたい土地でした。古墳の多さに驚き、豊かな田園風景に安堵し、美味しいものに舌鼓を打って、古の国富人も歌や踊りやお酒を存分に楽しんでいたに違いない、と思いを馳せました。今回は、ムードたっぷりの農村環境改善センターでちあきなおみの歌世界をお届けします。一緒に歌って踊ってみらね～！



ちゃっく澤幡 ちゃっくさわはた

5月に初めて宮崎を訪れました。南国情緒のある気候も土地も食産物も人も豊かななあと感じましたが、同時に演劇や音楽などの文化発展にも積極的で、とても感激しました！
今回の宮崎県3都市への訪問、鮮やかで艶やかな昭和の時代の雰囲気を皆様にお届けできることを本当に楽しみにしています！！



関連企画 『歌っちみろかい♪』町民歌謡ショー in 国富

終演後に本番で使ったのと同じ舞台上、ちゃっく澤幡さんの生伴奏でお気軽に、思い出の一曲を歌ってみませんか？国富町で皆様と一緒に、和やかにぎやかな時間を過ごしたいと願っています。
年齢・経験不問！町外の方のご参加もO.K！
皆様のご参加を心からお待ちしております。
日時／2023年7月30日(日)終演後
参加料・入場料／無料
※ご参加方法等の詳細は、チラシ・HPをご覧ください。

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 自主事業公演チケット情報 **2023年** ※2023年6月12日時点の情報です。

7月2日(日) 開演 14:00	都城市総合文化ホール 中ホール	こどももとな劇場#8 SPAC『みつばち共和国』 【出演】たきみみき、永井健二、仲村悠希、木内琴子(声の出演) 〈全席自由〉 一般2,500円(2,300円)/U25割1,000円/親子割(4歳から中学生+一般)3,000円	チケット発売中
7月22日(土) 13:00~15:00	宮崎県立芸術劇場 大練習室2	アートな学び舎2023 「わたしのカラダと、コエと、ウタ!」 【講師】鈴木あかね、泉篤史(オペラシアターこんにゃく座)、五味貴秋(ピアニスト) 《参加料》 6歳~15歳 500円/一般1,000円 募集人数:20名程度 ※応募者多数の場合は抽選	申込受付中 7月7日(金) 必着・受信
7月23日(日) 開演 14:00	宮崎県立芸術劇場 演劇ホール	オペラシアターこんにゃく座 オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』(共催) 【原作】斉藤洋(講談社刊「ルドルフとイッパイアッテナ」による) 【台本】いずみ凜 【作曲】信長貴富 【演出】立山ひろみ 【出演】泉篤史、金村慎太郎、鈴木あかね、熊谷みさと、五味貴秋(ピアノ) 〈全席指定〉 一般3,000円/U25割1,000円/おとなこども割(4歳から15歳+一般)3,500円 ※当日券はひとり500円増し	チケット発売中
7月30日(日) 開演 15:00	国富町 農村環境改善センター	『紅い花 ~松之木天辺、ちあきなおみを歌う~』 【出演】松之木天辺 【ピアノ演奏・編曲】ちゃっく澤幡 〈全席自由〉 おひとり500円/未就学児無料	チケット発売中
8月19日(土) 13:00~18:30	宮崎キネマ館	アートな学び舎2023「なんちゃって演劇史 feat.宮崎キネマ館」 ナショナル・シアター・ライブ『ハムレット』 【講師】立山ひろみ 【トークゲスト】喜田惇郎(宮崎キネマ館支配人) 《対象》中学生以上 《参加料》(映画鑑賞料含む)一般3,500円/学生3,000円/障がい者手帳割引3,000円	申込受付中
8月19日(土) 開演 11:00	小林市文化会館 大ホール舞台上	はじめてのクラシック♪in 小林 ~ピアノ~ 【出演】高場涼子(ピアノ) 〈全席自由〉 大人500円/子ども(未就学児)無料 ※事前申込制 定員:親子10組(1組3名まで。子ども含む)	申込受付中
8月26日(土) 開演 14:00	新富町文化会館	Let' 和の音♪「邦楽と落語」 【落語家】桂吉坊、月亭遊真、桂二豆 【上方寄席囃子三味線奏者】浅野美希 【長唄三味線方】杵屋邦寿 【地歌箏曲家】竹澤悦子 【企画監修・聞き手】織田麻有佐 〈全席自由〉 一般2,000円(1,800円)/U25割1,000円	チケット発売中
8月27日(日) 13:30~15:30	新富町文化会館	Let' 和の音♪「邦楽と落語」 ワークショップ「かじってみよう!」 寄席囃子に挑戦! 三味線コース(定員:20名) 【講師】浅野美希 大太鼓&締め太鼓&当たり鉦コース(定員:各5名) 【講師】月亭遊真、桂二豆 《対象》小学生4年生以上 《参加料》各コース:おひとり1,000円	申込受付中 8月4日(金) 必着・受信
9月9日(土)	宮崎市民文化ホール 大ホール	おながくのおもちゃ箱シリーズ おとのたねバンド編 【出演】衛藤和洋(ドラム&パーカッション)、大西映光(ベース)、黒木奈津季(ピアノ)、 伊豆謡子(進行&歌)、香月保乃(ユーフォニアム) 〈全席自由〉 3歳以下 無料/4歳以上500円/なかよしチケット700円 ※4歳以上2人1組(前売りのみ)	チケット発売中
9月10日(日)	えびの市文化センター		
9月23日(土)	延岡総合文化センター 大ホール舞台上	はじめてのクラシック♪in 延岡 ~フルート~ 【出演】熊谷愛香(フルート)、野崎さやか(ピアノ) 〈全席自由〉 大人500円/子ども(未就学児)無料 ※事前申込制 定員:親子14組(1組3名まで。子ども含む)	7月9日(日) 9:00 申込開始

【Attention(ご注意)】◎記載情報は変更になる場合があります。◎()内はくれっしえんど倶楽部会員価格です。◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く ◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

劇場休館のお知らせ

当劇場は、耐震性の強化を図る改修工事のため、令和5年夏頃から令和6年(終期未定)まで施設の休館を予定しております。この間、当劇場内において公演等を開催することができませんが、他の県内の公立文化施設での共催公演などを開催いたします。詳細は、年間ラインナップもしくは各公演のページをご覧ください。皆さまのご来場・ご参加を心よりお待ちしております。



年間ラインナップ

予約受付: 令和5年8月以降の施設利用の予約については、受付を停止いたします。

第28回宮崎国際音楽祭

ご来場ありがとうございました!

4月28日から5月14日までの17日間、16公演に及ぶ多彩なプログラムをお届けした第28回宮崎国際音楽祭。約17,000人のお客様にご来場いただきました。ご来場くださいました皆さま、ありがとうございました!

写真: K.Miura

お問合せ

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚 3-210
http://www.miyazaki-ac.jp/

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670
Twitter and facebook 随時更新中!「フォロー」といいね!お待ちしております